

# 腸管出血性大腸菌感染症：食中毒

●好発時期・年齢：夏季,約 80%: 15 歳以下(全年齢で起こりうる)

●原因：生肉などの飲食物の摂食 ●食後:数日間

●起炎菌：腸管出血性大腸菌(O157・O26・O111 等ベロ毒素産生性大腸菌)

●症状：水様下痢便,腹痛,血便

<合併症>溶血性尿毒症症候群(乏尿・出血傾向・意識障害等)

●検査：便培養 ●治療：安静,経口補水液, 場合により抗菌薬

●登園・登校：医師において感染のおそれがないと認められるまで

●予防：調理者の手洗い・調理器具の洗淨,食品の加熱(肉汁が透き通るまで)。排便後やおむつ交換後の手洗い。